

第 312 回 昭和の森 自然観察会

生きものたちの冬

藤田 浩二 (茂原市)

日 時：平成 29 年 12 月 10 日 (日) 13 時～15 時 天候：晴れ

参加者：19 名 (子ども 9 名、大人 10 名)、指導員 11 名

担当指導員：小川洋子、藤田浩二

今回の観察のテーマは、生き物(哺乳類・鳥類・昆虫類・植物)が、寒い冬をどう過ごそうとしているのか観察してみようというものでした。

哺乳類としてモグラ塚を観察しました。まずモグラのトンネルを探索して、途中で曲がっていることなどを確認し、暖かい時期と寒い時期でのモグラの生活の違いなどを絵本などで解説しました。

鳥類では、ヤマガラがハクウンボクの落下している種子を、冬の食べ物としていることを説明しましたが、午前中の下見時には沢山いたヤマガラが、本番では一羽も見られず残念でした。

昆虫類では、カマキリの卵囊やゴマダラチョウの幼虫などの他、子供達がバッタ類を沢山見つけて大いに盛り上がりました。やはり子供は、昆虫類が大好きようです。

おかげで植物のロゼットや花芽の観察をするタイミングを逸してしまいました。

今回は、視覚障害のご家族も参加されましたが、比較的狭い範囲の観察エリアとしたことは、そのような方々にも楽しんでいただけた要因であったかなと感じました。

